

青梅市文化財ニュース

第415号

令和4年5月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859)

青梅市立若草小学校

この文化財ニュースでは、今まで市立今井小学校まで紹介してきました。今回紹介する若草小学校は、第406号で紹介した今井小と同じ日に産声を上げた学校で、青梅市が発展していく中で新しく設立された学校です。若草小学校を紹介する上で、まず触れなければならないのが、土地区画整理事業でしょう。その辺りのことから振り返ってみたいと思います。青梅町・調布村・霞村が合併して最初の青梅市ができたのが、昭和26(1951)年4月です。初めに東青梅地区の区画整理事業が行われ、その後、河辺土地区画整理事業、霞台土地区画整理事業、三ツ原土地区画整理事業、新町土地区画整理事業と順次施行されていきます。広い道路が基盤の目のように建設され、計画的に市街地にするべく畑作地が住宅地へと整備されていきました。

青梅と入間を結ぶ町屋街道以南は、青梅線までほとんど人家がない状態であったため、区画整理事業は順調に進みました。まず河辺駅を中心とした青梅線の南側の区画整理が行われ、人口が増えていきました。そこで作られた学校が河辺小学校でした。次いで青梅線の北側も区画整理が始められ、人口が増えていきました。

この霞台土地区画整理事業では、公共公益的な都市施設の誘致を積極的に図ったことです。わかりやすく言えば、霞台第1住宅564戸、同第2住宅444戸分の用地として、公社用地に8haを提供し住宅団地として都市計画決定がされたことです。そして、昭和46(1971)年5月には、これらの団地に入居が完了しました。そのほか、警察署・消防署等の用地や中学校の用地も取得したのです。さらに、昭和48(1973)年には、羽村市との境界に近い公社用地に都営住宅405戸の建設も始まりました。

こうして霞台土地区画整理事業は進展していきました。そして現師岡町2丁目を一部含む、師岡町3丁目・同4丁目、現野上町2丁目を一部含む野上町3丁目・同4丁目、河辺町7丁目・8丁目・9丁目・10丁目と、その東側区域界に接して一部河辺・野上・大門・新町の名前(丁目が見つからない住所、例えば、野上〇〇番地)が新町地区の区画整理事業が完了するまで存続しました。

霞台土地区画整理事業は、河辺地区に遅れること1年11か月、昭和40(1965)年10月15日に審議会委員の選任、同42(1967)年1月に換地計画の作成が開始されますが、それより11か月早い昭和41(1966)年2月には街路等の工事が開始されています。昭和44(1969)年10月から建物等の移転開始、昭和47(1972)年3月10日に町名地番改正の告

示、同年5月15日に換地計画の認可、同年5月31日に換地処分 of 広告という順に進められました。

第375号で青梅市立河辺小学校のことを書きましたが、新生の河辺小学校は昭和46(1971)年4月1日に開校しています。そこへ、新しくできた霞台第1・第2住宅や野上町4丁目等に転居してきた子供たちが線路を超えて入学してきます。河辺小学校は当然児童の増加で飽和状態です。さらに昭和47(1972)年には河辺駅が橋上駅になり北口からも乗り降りできるようになり、河辺駅北側の人口が急速に増えていきます。

そのような状況下、昭和50(1975)年4月1日、青梅市野上424番地の1に霞台小学校が開校します。霞台第1・第2住宅が出来上がると、今度は都営住宅が河辺町7丁目に出来ます。霞台小学校を分家した河辺小学校でしたが、すぐに飽和状態です。そのため、新しく作る学校用地を探したところ、近くに青梅自動車学校という教習所の跡地(昭和48(1973)年閉鎖)がありました。それに西側の畑を少し買い足して新しい学校用地としました。しかし、その場所は青梅市野上662番地の1で、先にできた霞台小学校とは青梅街道を挟んだ距離でしたが、河辺町7・8丁目や都営住宅の入居者の子供たちを受け入れる学校を学区の外に作ったわけです。

そして、昭和52(1977)年6月にいよいよ建設工事が始まりましたが、人口の増加に建設が追いつかない状況でした。翌53(1978)年3月24日の河辺小学校の修了式では、河辺小学校に残る児童と新しい学校(若草小学校)に移る児童とのお別れの式も併せて行われました。

年度が代った4月6日には一部出来上がった若草小学校の体育館で、青梅市長を初め多くの来賓を迎えて開校式典が行われました。原嶋八三郎氏を初代校長に迎え、河辺小学校と霞台小学校から編入してきた1年生から5年生までの686名の児童と27名の教職員で開校しました。若草小学校も、その後児童数が増えていきますが、新町地区の区画整理事業によって新町小学校の児童数も急激に増加していききました。そこで新町小学校に通う児童を霞台小学校や若草小学校に振り分けるため、学区の見直しが行われ、もとの新町地区に住む子供たちは、新町小学校ではなく霞台小学校や若草小学校に通うことになりました。

現在、若草小学校の児童数は新1年生75名を迎え、484名(令和4(2022)年4月20日現在)で、開校以来44年が経過しました。そして、この4月1日に新たに第12代濱岡明男校長先生が着任され、校長先生を中心に、「豊かな学びの場 わかくさ 主人公は君!」を合言葉に、先輩たちが築き上げた伝統の上に、さらに磨きをかけるべく創立50周年に向けて教職員一丸となって、子供たちの教育に力を注いでいるとの事です。

(文責 神森 正)